

沖縄県外来種対策行動計画に基づく
ヒアリ 早期発見・防除計画

令和2年3月

沖 縄 県

1 背景と目的

ヒアリは、南アメリカ原産のフタフシアリ亜科のアリ類で、2017年5月に神戸港で発見されて以降、各地で確認されています。沖縄県内では2016年よりヒアリに関する調査が行われていますが、定着は確認されていません。

沖縄県では、県内には未定着であるものの、侵入した際の生態系等への影響が大きい外来種を「重点予防種」として指定しています。ヒアリは節足動物のほか、爬虫類、小型哺乳類、鳥類を集団で攻撃し捕食したりすることで等々生態系へ影響を及ぼします。また、家畜への刺傷被害による農林畜産業への影響や、人への刺傷によって人の生命又は身体に関わる被害が生じることなどから、重点予防種に指定されています。本早期発見・防除計画は、ヒアリによる生態系等への影響を軽減するための目標や方法等を示すものです。

2 概要

(1) 和名等

ハチ目アリ科

ヒアリ (学名 *Solenopsis invicta*)

(2) 分布

原産地：南米

県内の確認状況：未定着。野外での定着は国内全域で確認されていないものの、2017年5月以降、本州や九州の各地の港のコンテナ置き場や、運搬されたコンテナ内などから発見されています。2018年8月には北海道でも発見されました。

(3) 形態・生態

体長2～6mm、主に赤茶色のアリです。腹柄が2節、後胸に棘がなく、触角先端部2節が棍棒状であることがヒアリ類（ヒアリもしくはアカカミアリ）の特徴になります。

公園や空き地、畑地、草地など比較的開けた環境に営巣し、土で大きな塚を作ります。節足動物のほか、爬虫類、小型哺乳類、鳥類を集団で攻撃し捕食したりします。農作物やその種子も採食します。

毒性の強い針を有しており、刺されると激しい痛みを感じ、アナフィラキシーショックを来すこともあります。



ヒアリ



ヒアリの巣



ヒアリ類（ヒアリ）の見分け方

(4) 想定される侵入経路

ヒアリ生息地（主に中国）からのコンテナなどによって人為的に運ばれて侵入し、公園や空き地、畑地、草地など比較的開けた環境に定着する可能性があります。

3 指定の状況

特定外来生物	○
我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト	侵入予防外来種
日本の侵略的外来種ワースト 100	—
世界の侵略的外来種ワースト 100	○

4 生態系等への影響

節足動物のほか、爬虫類、小型哺乳類、鳥類を集団で攻撃し捕食したり、在来種と競合するなど、生態系へ影響を及ぼすことが懸念されます。また、人が刺傷されると、激しい痛みや腫れを感じ、人によっては蕁麻疹や体調不良などのアレルギー症状がでることもあります。さらに、農作物をかじって品質や収量を低下させたり、家畜が襲われ、農業や畜産業への影響も懸念されます。

5 目標

◎ ヒアリの侵入防止

ヒアリは国内各地のコンテナ等から発見されていますが、野外での定着は確認されていません。沖縄県内への侵入は中国や台湾などのヒアリ生息地からのコンテナ輸送に伴う侵入が懸念されます。侵入リスクの高い港湾地区などで調査を実施し、また県民等から情報を収集することでヒアリの侵入を監視します。ヒアリの侵入が確認された場合、関係機関と連携して速やかに対応します。

6 対策の方針

◎ ヒアリの侵入監視

港湾地域などヒアリの侵入リスクの高い場所において、定期的を目視調査等を実施し、ヒアリの侵入を監視します。また、広く県民からヒアリの情報を集めます。

◎ ヒアリが発見された地域からの排除

ヒアリが確認された場合、発見された場所や状況によって異なりますが、設置型殺虫剤等による駆除を実施するとともに、誘引剤調査や目視調査により周辺地域での生息状況を確認します。また、可能な限り侵入経路を特定し、関係機関と連携して対策を検討します。

◎ 普及啓発

ホームページ、イベント、チラシ配布等を通して早期発見等の目的等を県民へ周知するとともに、発見情報の収集や監視・調査に向けた協力などが得られるよう取り組みます。

目標：ヒアリの侵入防止

対策の方針		実施項目	期間及び実施内容	
早期発見	ヒアリの侵入監視	侵入状況の調査	短期～ 長期	侵入リスクの高い場所（輸入コンテナの取扱いの多い港や港周辺等）で調査（誘引剤調査、目視調査等）を実施し、侵入を監視する
		県民や事業者からの情報収集	短期～ 長期	関係事業者を中心にその生態等を周知し、幅広く情報収集を行う。
初期防除	ヒアリが発見された地域からの排除	侵入したヒアリの排除	短期～ 長期	沖縄県ヒアリ等総合対策マニュアルに基づき、発見した個体を駆除するとともに、周辺地域での生息状況を確認する。
		再侵入の防止		侵入経路を可能な限り特定し、その対策を実施する。
普及啓発		県民等への普及啓発	短期～ 長期	ホームページ、イベント、チラシの配布等を通して、早期発見の目的等を県民へ周知し、協力が得られるよう取り組む。

短期は概ね3年目までの期間、長期は概ね4年目以降の期間

7 実施体制

効果的かつ効率的な対策のため、以下のような体制を目指し、関係機関と連携します。

- 港湾地域、空港及びその周辺等での監視：沖縄県環境部、(環境省、施設管理者)
- 発見後の初期対応、周辺調査：沖縄県環境部、(環境省、施設管理者)

8 早期発見の方法

(1) 行政による監視

ヒアリに関する早期発見の方法は、沖縄県ヒアリ等総合対策マニュアルにとりまとめており、以下の手法を活用して監視します。

○ 誘引剤調査

港湾地域や空港、米軍基地周辺の道路沿いや公園等で、スナック菓子等を誘引剤として使用し、40～50分後に集まったアリを集めます。殺処分後、室内に持ち帰り、顕微鏡による形態確認や、化学分析によってヒアリの有無を確認します。

○ 目視調査

港湾地域や空港および周辺地域の道路沿いや公園等で、緑地、植込み、人工物の裂け目、転石や廃材の裏などに生息するアリ類を目視で確認します。

また、定量的な調査方法としては、公園等で20m×20mの調査枠を設定し、その中にいるアリを全て採集します。1回の調査時間を15分間として繰り返し、より多くの種を採集します。

○ SLAMトラップ

沖縄県内の広域でテント型トラップ(SLAMトラップ)を使用し、通年を通して有翅虫(女王アリと雄アリ)の侵入を監視します。また、地面を歩くアリも採集できます。

(2) 県民や事業者による監視

ヒアリは国外から輸入されたコンテナ内や、港湾をすり抜け民家まで運ばれた後に発見されるケースも報告されていることから、港湾地域等の水際での監視をすり抜けた場合、民家敷地や事業者敷地等に定着する可能性があります。

県民や事業者に監視の目が広がるよう、周知を図り、情報共有体制の構築に努めます。

9 初期防除の方法

ヒアリの初期防除の方法は、沖縄県ヒアリ等対策総合マニュアルにとりまとめておりますが、発見された場所や状況によって対応は異なります。詳細は沖縄県ヒアリ等対策総合マニュアルに掲載しています。ここでは、環境省資料（改訂版ストップ・ザ・ヒアリ）を参考に、簡単に、発見されたアリが少数の場合と、アリの集団や巣を見つけた場合について記載します。

○ 殺虫剤等による防除（アリが少数の場合）

屋内やコンテナなどで少数のヒアリが発見された場合は、スプレー式殺虫剤等で殺虫します。

○ 状況に応じた対応（アリの集団や巣を見つけた場合）

アリの集団や巣を発見した場合、安易に殺虫剤等を使用すると、ヒアリの逃走や拡散を招く危険性があります。また、在来のアリなどを殺してしまうことでかえってヒアリが定着しやすい環境をつくってしまう可能性があります。

ヒアリの侵入状況に応じて適切な手法を選択するため、沖縄県ヒアリ等対策総合マニュアルに従って対策を検討し、関係機関との連携による対策を実施します。

10 対応事例（マニュアル等）の紹介

2018年以降、環境省のほか、地方公共団体でも神戸市、岡山県、福岡県などでヒアリの防除の考え方や駆除方法などがマニュアルとして整備されてきています。ここでは、各マニュアルの概要を以下に紹介します。

(1) ヒアリの防除に関する基本的考え方 Ver. 2.0（環境省）

この考え方は、ヒアリが国内に定着する前の水際対策として、国の機関や地方公共団体、港湾管理者、荷主、運送事業者等が実際に防除を行うための参考になるものとして作成されたものです（平成31年2月に改訂）。

発見事例や防除事例、連絡体制のほか、基本的な防除に関する考え方として、駆除方法や薬剤の特徴などの情報が整理されています。

(2) 神戸市ヒアリ等対策マニュアル 第2版（神戸市）

このマニュアルは、神戸港及び神戸市域内におけるヒアリ等の非意図的侵入に対して、外来生物法の趣旨及び国レベルの動向を踏まえ、地域レベルでの具体的対策をとりまとめられたものです（平成31年1月に改訂）。ヒアリ、アカカミアリ、コカミアリを対象としています。

市内を5つの区域（管理区域、特別管理区域、周辺区域、注意区域、一般区域）に分け、各区域において必要な対策を内容によって分類したマニュアルを作成しています。マニュアルは管理区域・防除マニュアル、デバン中発見時・初動防除マニュアル、初動定着確認時・防除マニュアル、行政対応マニュアルが作成されています。

(3) 岡山県ヒアリ対応マニュアル Ver.1（岡山県）

このマニュアルは、行政、港湾管理者、荷主、貨物運送事業者など多くの関係者が実際にヒアリと疑わしいアリ類を発見した際の初動対応の参考となるように、ヒアリ防除の基礎的な知識と、実際の現場で使える発見ケース別の基本的な対応フローがまとめられたものです（平成30年3月）。

県内を6つの区域（特別監視区域、監視区域、警戒区域、準警戒区域、注意区域、一般区域）に分類して、発見ケース別の初期対応について、フロー図とチェックシートが作成されています。

(4) 福岡県ヒアリ等対応マニュアル（福岡県）

このマニュアルは、ヒアリ等に関する正しい情報を周知するとともに、国や県、市町村、県民、関係事業者等の各主体が一体となってヒアリ等の対策に取り組むために作成されたものです（平成30年7月）。ヒアリとアカカミアリを対象としています。

ヒアリの発見から通報までの県民・事業者等の役割、通報からヒアリ等の確定までの行政の役割、生息状況調査から防除完了までの県民・事業者等と行政が協力した防除の流れがまとめられています。

(5) 那覇港港湾関係者向け：ヒアリの侵入を防ぐための初動対応マニュアル Ver1.0
(那覇港管理組合)

このマニュアルは、那覇港に関わる港湾関係者の方々がヒアリと疑わしきアリ類を発見した際の初動対応をまとめたものです（平成 31 年 4 月）。

ヒアリの発見から、見分け方、通報先、初動対応について、環境省や沖縄県のマニュアル（案）と整合をとり作成されています。

11 早期発見・防除計画の見直し

当該早期発見・防除計画は 3 年目に中間評価を行い、5 年目に見直しを行います。なお、対策上必要があると認められる場合は、随時見直しを行うものとします。